

日本透析医学会研修セミナー【東京開催】

透析医療における Current Topics 2017

高齢者透析療法を再考する



開催日 平成29年 **5月21日** (日) 8:45~16:45

会場 コクヨホール(JR品川駅港南口)

【会長】秋澤 忠男 (昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門) 【研修委員長】大平 整爾 (札幌北クリニック)


会費 2,000円

定員 300名 ※定員になり次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。

- 参加申込**
- ・ご参加には、事前申込みが必要です。
 - ・事前申込みは、FAXにて受付いたします。
 - ・詳細はホームページをご覧ください。
 - ・日本透析医学会会員以外の方もご参加いただけます。

単位取得について

- ① 一般社団法人日本透析医学会の認定医制度 (3単位)
- ② 6学会合同認定「透析療法指導看護師」の受験資格ポイント (4ポイント)
- ③ 透析療法合同専門委員会「透析技術認定士」認定更新点数 (5点)

問合わせ先  **公益社団法人日本透析医学会 事務局**

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-15-2 淡路建物ビル2階
TEL : 03-3255-6471 FAX : 03-3255-6474
E-mail : info@touseki-ikai.or.jp
URL : http://www.touseki-ikai.or.jp

■プログラム■

慢性腎臓病における認知機能障害と脳萎縮
【演者】鶴屋和彦 (九州大学大学院包括的腎不全治療学)

高齢透析患者の栄養と運動
【演者】伊丹儀友 (伊丹腎クリニック)

高齢者の運動機能障害
【演者】今井 亮 (桃仁会病院整形外科)

高齢透析患者との会話のポイント
【演者】室谷典義 (JCHO 千葉病院)

**高齢者に対する透析療法の工夫
(治療法選択、透析条件・処方など)**
【演者】小松康宏 (聖路加国際病院)

**高齢透析患者のADL & QOL への一考察
(導入・非導入・継続・継続中止)**
【演者】大平整爾 (札幌北クリニック)

日本透析医会研修セミナー
透析医療における Current Topics 2017（東京開催）
「高齢者透析療法を再考する」

日 時 平成 29 年 5 月 21 日（日）8：45～16：45
場 所 コクヨホール（JR 品川駅港南口）

公益社団法人 日本透析医会

開催の趣旨

治療の有用性をどう判断するか

今回の研修セミナーでは、話題になり続けている「高齢者に対する透析」を取り上げ、幾つかの側面からの分析を試みました。

先刻ご承知のように、2014年末現在の日本透析医学会統計資料によりますと、(1) 全透析患者の平均年齢は67歳、(2) 2014年導入患者の平均年齢は69歳、(3) 最も割合の高い年齢層は男性で70～75歳(15.5%)、女性で75～80歳(16.4%)でした。2014年末の総患者数約32万人中65歳以上の者が64%を占めることや90歳以上の維持透析患者は男女総数で5,005人にも達するとの報告に接しますと、透析患者の高齢化を強く実感いたします。

これは取りも直さずADLやQOLが既に低い人々がこの治療の対象者となっていることを示しています。但し、高齢者においても健康較差は大きく、2016年9月5日の熊本日日新聞は透析を受けて5年、100歳を迎えて長寿を喜び透析に感謝する女性を報じていました。

さて、どの様な療法であっても、その療法が患者に与える負担や苦痛よりも患者が同療法から受ける恩恵が大きく病苦の改善を期待できるのであれば、得られるQOL・ADLの評価という大問題があるにせよ、それを開始し継続することを原則といたしましょう。

逆にある療法の患者に与える負担や苦痛が効用や恩恵を大幅に上回っている場合は、ある程度の延命をもたらすと予測されても、療法の開始や継続は大いに躊躇されることとなります。しかし、これは言わば医療者の立場からの考え方であり、患者側がどのような態度を採るかは、話し合いの仕方次第です。医療者の経験・見識・意思疎通術などが、治療の方向を決めてしまうとも言えます。高齢者の暦年齢と生理学的年齢には個人差が大きく乖離があることは稀ではなく、身体機能だけではなく精神・心理機能をも含めた適正な評価法を採用することが今後一層透析導入の可否判断には不可欠となりましょう。

当該患者の高齢化により、維持透析療法の意義が様変わりしました。往時、青少年・壮年の患者に何としても生き抜いて(生き抜かせて)社会復帰を果たす(果たさせる)ことが目指されたのですが、昨今では定年退職後の人生を透析療法とどう折り合いを付けて過ごしつつ命を全うして貰うか換言すれば生活支援と看取りを患者本人・家族と共に透析スタッフが模索することが求められていると感じております。

願わくば、高齢者の生命終焉に対して満足感と最後の輝きを与えるために、医療者として何を成すべきかが最終的に問われることとなります。医療者の死生観、人生観が問い質されることでもあります。医療としての総仕上げとでも云うべき諸事項を、皆様と共に学び考えたいと思います。

研修委員会委員長 大平整爾

プログラム

- 8：45－8：55 開会の辞 秋澤忠男（日本透析医会会長）
開催の趣旨 大平整爾（研修委員会委員長）

<午前の部>

- 8：55－9：45 演題 慢性腎臓病における認知機能障害と脳萎縮
演者 鶴屋和彦（九州大学大学院包括的腎不全治療学）
司会 山本裕康（厚木市立病院）
- 9：55－10：45 演題 高齢透析患者の栄養と運動
演者 伊丹儀友（伊丹腎クリニック）
司会 佐中 孜（江戸川病院生活習慣病CKDセンター）
- 10：55－11：45 演題 高齢者の運動機能障害
演者 今井 亮（桃仁会病院整形外科）
司会 天野 泉（名古屋バスキュラーアクセス天野記念診療所）

11：55－13：35 昼休み
(12：00－12：30 日本透析医会通常総会)

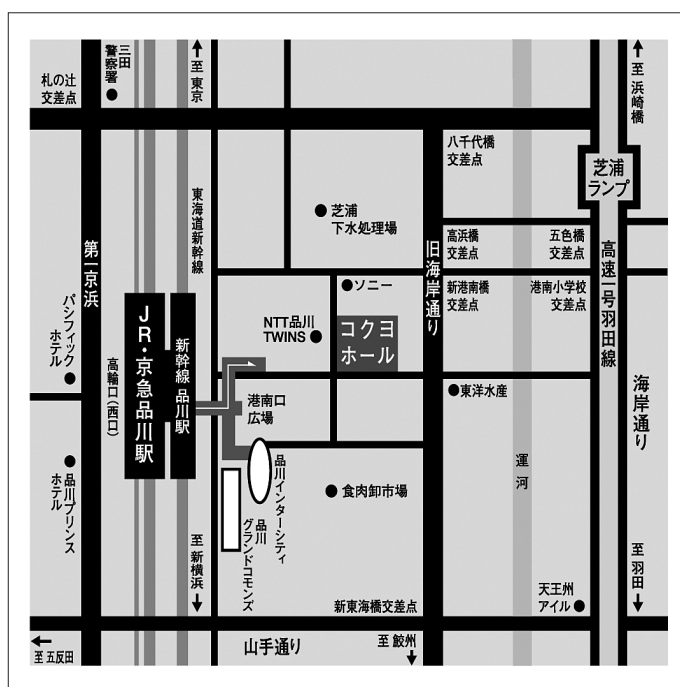
<午後の部>

- 13：35－14：25 演題 高齢透析患者との会話のポイント
演者 室谷典義（JCHO 千葉病院）
司会 頼岡徳在（広島腎臓機構）
- 14：35－15：25 演題 高齢者に対する透析療法の工夫
(治療法選択、透析条件・処方など)
演者 小松康宏（聖路加国際病院）
司会 秋葉 隆（関川病院）
- 15：35－16：25 演題 高齢透析患者のADL & QOL への一考察
(導入・非導入・継続・継続中止)
演者 大平整爾（札幌北クリニック）
司会 鈴木正司（信楽園病院腎臓内科）
- 16：35－16：45 閉会の辞 宍戸寛治（研修委員会担当理事）

※各講演後に10分間の質疑応答あり

参加される方々へ

1. 参加費 2,000 円
2. 定員 300 名
※定員になり次第締め切らせていただきますので、ご了承ください。
3. 参加申込
 - ・ご参加には、事前申込みが必要です。
 - ・事前申込みは、FAX にて受付いたします。詳細はホームページをご覧ください。
 - ・日本透析医会会員以外の方もご参加いただけます。
4. 単位取得について
 - ① 一般社団法人日本透析医学会の認定医制度（3 単位）
 - ② 6学会合同認定「透析療法指導看護師」の受験資格ポイント（4 ポイント）
 - ③ 透析療法合同専門委員会「透析技術認定士」認定更新点数（5 点）
5. 呼び出しについて
会場内での呼び出しは緊急の場合以外は致しません。



コクヨホール

東京都港区港南 1 丁目 8 番 35 号

TEL 03-3474-6092 (当日のみ)

問い合わせ先

公益社団法人日本透析医会 事務局

TEL : 03-3255-6471 FAX : 03-3255-6474

E-mail : info@touseki-ikai.or.jp

URL : <http://www.touseki-ikai.or.jp>